

入札等監視委員会の議事概要の公表について

北九州市入札等監視委員会の令和元年度第3回定例会議を次のとおり開催したので、別添のとおりその議事概要を公表する。

記

開催日時 令和元年11月28日（木）14：00～15：20

会 場 北九州市庁舎15階 15C会議室

令和元年度第3回 北九州市入札等監視委員会 議事概要

1 会議名

令和元年度第3回北九州市入札等監視委員会

2 開催日時・会場

開催日時 令和元年11月28日(木) 14:00～15:20

会場 北九州市庁舎15F 15C会議室

3 出席委員(五十音順)

今泉 恵子、田籠 亮博、中尾 美佐、松田 亨、森江 由美子

4 議事

(1) 令和元年度第2四半期の工事契約状況等の報告

ア 次の事項について報告した。

- ・工事契約件数及び契約金額について
- ・建設工事等有資格業者に係る指名停止及び資格取消について

(2) 令和元年度第2四半期の工事契約抽出案件の審議

ア 抽出方法について

審議する案件は、令和元年度第2四半期に契約をした工事の中から、松田委員が10件(契約課契約分8件、上下水道局契約分2件)を抽出した。

イ 審議における質疑等

(問) 総合評価、一般競争入札による土木工事で、予定価格がどちらも2億円程度だが、どういう基準で応募資格が単体と共同企業体に分かれたのかを知りたい。

(答) 本市の入札制度では、技術的、資金的リスクを回避するために、基本的に2億円以上の土木工事については、発注対象を共同企業体としている。しかしながら、今回単体施工とした川の護岸工事は、作業ヤードが狭く複数の業者と一緒に施工すると効率が悪くなることから、従前より単体発注としている。

(問) 総合評価の評価調書の点数は、2社の平均なのか、それとも合わせてなのか。

(答) 平均ではない。例えば、施工計画は両方の企業で考えて提案してきており、安全管理、周辺環境対策などが優れていれば満点の5点となる。それ以外の工事成績などは、親業者の方についてのみ評価を行っている。

(問) 1社のみの評価ということは、1社の良いところだけが表に出ており、もう1社は共同企業体とは名ばかりで、下請けの様な形になっていないかが気になる。ちなみに、共同企業体として工事を施工すれば、その工事实績につ

いては、両方の実績になるのか。

(答) 共同企業体で受注した場合、子となる構成員についても工事实績となり、評価も親と同じ点数がつく。

(問) 一般競争による土木工事だが、他に護岸工事の入札が16件行われている。このように入札が集中した理由があるのであれば知りたく、また入札が集中することで、受注者と発注者に弊害が生じないかを知りたい。

(答) 護岸工事は、雨水で河川が氾濫しないように堤防を増強する工事である。発注がこの時期に集中したのは、雨が少ない冬場から梅雨の前までに工事を完了させる必要があるためである。また、今年度は暫定予算の影響もあり、本予算成立後の7月からの発注となったため、特に集中する形となった。なお、工事は予定価格に応じてAランク、A・Bランク、Bランクの業者を対象としたが、土木業者はA、Bランク共に数は多いため競争性も働き、弊害はなかったと考える。

(問) 一般競争入札による電気通信工事だが、1者入札で、落札率が97.4%と高くなっているため、詳しい入札状況を知りたい。

(答) 消防局では、本庁と市内の2箇所を高所監視カメラを設置している。これらの映像を本庁の指令センターに流し、各消防署に転送することで、迅速な出動を促し、火災、救急、災害などに対応している。今回の工事はこの監視カメラのみを更新する工事であり、送受信ネットワークのインターフェイスの工夫をすれば、最初に設置した業者以外にも施工可能と思われたため、特命とはせず一般競争入札に付した。しかしながら、応札したのは最初に設置した業者のみという結果であった。

(問) 指名競争入札によるとび土工工事で、どちらも落札率が99%台と高いため、詳しい入札状況を知りたい。また、がけ崩れ対策工事の傾向であるのであれば、その理由を知りたい。

(答) 通常は、民地であれば所有者が対策を行うが、昨年7月の大雨による災害は国から激甚災害の指定を受けたため、市が工事を行うことになった。民地ということで作業スペースが取りにくいなど、やりにくい工事である上、法面関係の業者は数も少なく、既に他の災害工事で手一杯であったため、競争性を確保できず、落札率が高くなったと考える。

(問) 指名競争入札によるとび土工工事で、落札率が高くなっているため、詳しい入札状況を知りたい。また、この他に学校のブロック塀等安全対策工事は軒並み落札率が高くなっているため、全体的な傾向であるのであれば、その理由を知りたい。

(答) 大阪の地震でブロック塀が倒壊して児童が亡くなった事件を受け、本市では、学校施設等の塀の安全対策工事を行っている。内容はブロック塀を撤去して、フェンスに取り換えるものであるが、学校での工事は、児童の安全管理や騒音などに配慮が必要であり、業者にとってはやりにくい工事であったと思われる。なお、落札率については、一校のみで発注した工事は低く、近

隣の学校を複数まとめて発注した工事は高いなど、現場の状況によってかなり差がみられる。また、工事が出始めた当初の落札率は低かったが、業者に仕事が行き渡ったと思われる時期以降は高くなる傾向があり、発注時期に因る落札率の差もみられる。

(問) 指名競争入札による防水工事で、指名は同数の15者だが、一方は落札率が99.78%と非常に高くなっているため、この二つを比較してどのような入札状況であったのかを知りたい。

(答) どちらも同じ業者を指名しているが、一方は落札意欲のある業者が最低制限価を若干下回り落札に至らなかったため、次順位の予定価格近くで応札した業者が落札したものである。

(問) 特命随意契約による昇降機修繕工事で、受注者が同じ業者であるが、落札率が99.54%と全く同じであるため、予定価格の積算の詳細を知りたい。

(答) エレベーターという特殊な機材であるため、積算については業者の見積を参考にしているが、数字をそのまま使うのではなく、本市の積算要領により一定の査定率をかけている。また、諸経費についても積算基準をもとに算定しており、予定価格は業者の言い値ではなく、適切な積算が行った上で決定している。

(問) 随意契約によるタイル工事で、特命ではなく、参加業者1者の随意契約となっているため、詳しい入札状況を知りたい。

(答) 施工可能な業者が3者あるため、指名競争入札が原則であるが、昨年度からの当該工場の入札案件では、A社しか入札していない。今年度もこの3者を指名したが、やはり入札してきたのはA社のみであった。本来は再度入札を行うべきではあったが、昨年からの経緯もあり、工期の都合で時間もないことから、応札業者と随意契約を行うこととした。

(問) 指名競争入札による水道施設工事で落札率が100%と非常に高くなっているため、詳しい入札状況を知りたい。

(答) 多数指名するものの2者の応札にとどまった。工事内容は浄水場と配水池を結ぶ送水管の工事であり、町中の配水管布設工事と違い難易度が高いため、辞退者が多くなったと考える。落札率については、1者は最低制限価格を下回ったため落札に至らず、予定価格で応札したもう1者が落札したため、高くなった。

(問) 指名競争入札による機械器具工事で、落札率が99.94%と非常に高いため、詳しい入札状況を知りたい。

(答) 当該工事は7月9日に入札を行ったが不調になった。不調の原因を調べたところ、耐荷重やタンクの安全性についての記載が不足しており、業者が判断しにくかったことが原因とみて、仕様の特記事項を修正し再度入札を行った。しかしながら、場所柄競輪場の開催に配慮が必要なこと、危険物を取り扱うことから、業者にとってはやりにくい工事であったと思われ、辞退者も

多かった。結果、競争性が確保できず、落札率が高くなった。

※ 次回の委員会は、令和2年2月18日（火）に開催することとなった。